

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ4月-

### ～早春の自然観察と巣箱づくりに挑戦～

今年度最初のイベントは4月15日(日)の「巣箱づくり」でした。まだ寒さが残る早春ですが、参加された方々は元気いっぱい巣箱作りをたのしみました。



〈お父さん、お母さんも応援!〉

園内の自然観察会では、カタクリ・ミズバショウ・ニリンソウなどの花が咲き、フキノトウも絶好調でした。

家族での参加が多く、お子さんが持ち帰った巣箱に小鳥が来ることを願っております。

## 科学館案内① -こもれびの森ジオラマ-

### ～一松山(いっぴつやま)県有林の紹介～

玄関を入ると立体地図の模型があります。一松山(こもれびの森)の遊歩道や見どころを案内しています。一松山は県内最大の県有林で997haの広さがあります。ブナやミズナラなどの天然林のほか多くの生き物も生息します。

森林科学館はこの「こもれびの森」の玄関口に位置しています。「こもれびの森」を知り楽しむために、毎月発行する「こもれびの森通信」で、科学館を案内していく予定です・・・。



〈こもれびの森ジオラマ〉

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)の  
大友さんのコーナーです

### “夏鳥の季節”

- ①オオルリが美声を園内に響かせています。雨上がりは低いところに降りてくることがあります。
- ②アオジが木蓮の花を愛でて?います。
- ③センダイムシクイがひょうきんな顔を見せてくれました。夏鳥ではないですが、④トラツグミがペアで昼堂々とエサ取りに熱中しています。(大友)

①オオルリ



②アオジ



③センダイムシクイ



④トラツグミ



## 生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

### “やっとの羽化です”

館内で飼育しているウスバカゲロウが蛹の時期を迎えています。蛹は土をまん丸にした繭となり、今年は5個(匹)がもう少しで成虫になりそうです。

昆虫の成長は実に面白い。幼少時のイモ虫やサナギなどからは想像もつかない姿の成虫になるから不思議です。このウスバカゲロウも例外ではなく、幼虫のアリジゴクは名前や姿形・生活史も奇怪です。成虫はトンボの姿になりますが、飛び様はヒラヒラと羽をばたつかせ上手に見えません。おぼつかないこんな動きや成虫までの過程を思うとなぜか哀れみのようなものを感じてしまいます。(は)

〈幼虫うしろにしが進めない〉



〈蛹見事なまん丸の繭〉



〈成虫カミサマトンボと呼ぶ〉



## まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

### 今や雑草扱い・・・～ヤハズエンドウ(マメ科)～

春先になると、ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)の花がよく目立ちます。つる性で、巻きひげがあり、あちこちに絡みつきながら成長します。マメ科特有の花の形で、葉の付け根には蜜腺があり、アリがよく群がっています。サヤは熟すと黒っぽくなり、裂けて中の豆が飛び出していきます。原産地は地中海方面で、古代オリエントでは麦作農耕の開始とともに「エンドウ(マメ)」とともに、麦との混ぜ植え栽培がおこなわれていました。確かに「ヤハズエンドウ」の若葉や豆は食べることができ、古代では貴重な作物であったろうと想像できます。

しかしながらその後、「エンドウ」の方はヨーロッパに伝わってさまざまな品種改良が進み、現代では、「グリーンピース」や「サヤエンドウ」として私たちの食卓で普通に食べられています。

一方、「ヤハズエンドウ」の方は、いつしか忘れ去られ、今ではとてもやっかいな雑草となっています。昔風に言えば、優等生で出世したのが「エンドウ」で、どうしようもない落第生が「ヤハズエンドウ」といったところでしょうか・・・。(千葉)



〈「ヤハズエンドウ」〉

## 科学館情報

### リニューアルは?

冬季休館中の館内リニューアル工事により、館内が広くなりました。また、「こもれびの森」で見ることができる植物、野鳥、キノコなど展示しています。子供たちにも分かるような「生物多様性」に関する展示パネルや、「ジオパーク」関連の案内も用意しました。科学館に立ち寄ってから「こもれびの森」を散策すれば、楽しさ倍増といったところです・・・  
ご来館をお待ちしております。  
「こもれびの森」森林科学館